方言魔

十辺舎一九著

歌川国直画

へ13
3055

へ13
3055
門へ13
3055

大字七くづり

方言鏡

全

十返舍一九作
歌川國直画

田所町
鶴屋金助板

昭和九年
六月二日
購求

自序

東京都
立図書館

小春男徳齋が国性爺の宿習吃ちゃ平が産
後乃ちゃり場世りの頃ゆりやその糟粕を
嘗て世書と為ちと拵ふ不ちゆりしもあ〜成平
さ紅り泊三番へ世ちり〜芋故近れ東京の書やう。
一年と意ちり。是れ閲すれば凡て浮世絵のち
ゃ場を拵書せ〜まてこそあり。そ拵で中くら
思ひよりまるみく。世ちの好士部(ゆ)ゆ(で)月祥
日ゆの一興と好りて。素仮拵を清〜のよ可ゆん
紅と。例の才言鏡茱萸稚本と頒する事ちり。

文化
亥初春

東都
十返舍一九志

藍庭晋呆書

方言競茶番種本序画

近松東南
嗣半二
揉臺灑落
狂世塵
男徳又串
戯上口
曲節奇聲
鳴衆人

山神御詫宣記

十返舎一九作
勝川春亭画

左右ハ虎の皮ハ褌
此方ハ荒神様

方言競茶番種本

鸚鵡よく言ども拝色をたゝぶ猩々よく言ども
潮来曲を唄ぶ人として拝多潮来をうゝぶれば
同待の茶阪大びゝ冷ふとあるぶそれ知ゆる
孫ど色もまゝ浮猥猥ハ汗やゝう酒ふ春巻
まゝふ浪ふゆゝあゝ嘉も実ふ連ゆゝ好むゝと
や女巳ゝ家間ふ方ゆゝ浮猥猥

のきうちにて入とむ客人法高人そのひいたて
よりづかと客迎に入のちよんと糸門口ろ〳〵小袖と
かぐわイ御中上まとる酒肴吉美拾とふハ
内方でござりまとるるゝ仕ま〳〵れまゝ芸
人ゆ法まて糸ほ〳〵コレ太郎ろくも云こゝろ内
方ハ最初いうてのゝ浮瓶瑞好まの多和久ゑんでも
でもこゝ浮瓶瑞でゆり付孫ぶ乳ふ〳〵ねこいひ

方云 ま〳〵

そもこも浮瓶理好ハ浮文の甘ま人とゝふ文のれ
らゞ口入コレ必ゆるまゝぞとゝ云ゆとれば甘藤吉色
食ておくれるより代物の文房お敬ゝ出ちよん
ちゝ湯どのとゝ太郎〳〵高細ゝ三ゝそゆほまシテ
そのれ多入といゆるの入ハイヤ初見ゝ男多ゝ郎とヤ
ほて頂ると実体吉浮瓶理入の好物でござりま
さげふござりまとヲそれゝ入〳〵生玉多元と紀

さてもあぶなかりしまこと外ゆもあんぞいひうるる
のやあるうとの為主べたくあの板のるふ平仮ばるふ
ゆりゃとるもおこぶほどたれどもお座敷りけそこ掃おお
見形のお髪月代まの木もろう阪も焼小料理もちく
さんだうちよつとお客へお仮相公第酒の燗わ
つ焼豆腐獣活うど高下とうてさんくとさんと接間
へ肉汁のお徳用ゆこの男弁一小合へぶとも牡へ

ぬと活合くそこたお給金ぶでも安い屋でござり
まこと小異といしまべりるお教へ性びでうまい
そいさほいまへまへ者をまどのも恋お性びでわらふ
へのへまづへおくるの口ごふ入て搭わが安物ばと最
おるるお稼ぐひゃとまこと時也てちよんまへおりそのの
まへまへまべお教へ奥へたくへ勇とこのひてこそへたる
かるおうう玄関さに不所の口者のたへまりこのあたう

茶小法師は公家のゆるし有て家来の中間へ書
状も浮世絵ごとに彩色して形の文板にて摺こと
つけ者共を威義とし所へくわしの方へ持ぬどの茶
て夜伽で珍重くさせれば玄元寺も出来それ相別
吳竹茶屋紙に元へ出家ものとござる
てナントおもしろやコレハ接拍子茶屋と家
魚の間やさびもまんのことに間ゆゑ仮りとも少

男来の間ゆまづ後先はるシテその出家とこれの
間イヤ別段でもござるの今日来所わて門おと振り
茶おろうの出て歌ものう出服ひろ屋敷ひろ屋つけ
吳も後痛の茶もきろふ大和紙ごとれたしわて
拍子ごと体もつんやさごいぶせんとねぜ所ぞうぞも
出家の出家とつんと吳さこのひと雪体の出家に来ぶり
何ごと出家のものござるとこぶ出家と来出

て此若痛を助けんと生きく世に住する男ひとへに稼ぎひ
きるといふ者なれども者ぐ者ひとつのむねぞ者
家網ハハア幾度か幸抱者〳〵イデ生涯を閑光
ヤアく進ずる弥ぶ者を金よまうく嫌やとれ
かまをかまをかまをか

めぐらつぐいふく。仙人ぶぎ。ぶ。こそ家所
天井屋根うら揚板の上に猫わが落ちても食ひて殺
ざ。ぶ。式揚の用意。異形とこそ。もつて有ふうけまさうまでも
ぶく。ぶ。ぶ。ぶ

いまだもわかせどさらくるさらに
あぶらより大豆上掬
も未信とうけこうばと求て言ふんと世ふいづくよりうへ
ちりんぶ豆一双蒔わり豆腐と同じけるそのあれシやと蒔く
やとかと出とうて打たけくいどこわくそふ手用ふ
冥とそれどこいふいつの男ふ二双三双ほう合蒔を初
とて蒔されの展されそんび種の浦の紙とび蒔とび蒔
びとろとび元併と色て系猫とかけてこそ蒔さろスハ

一本ずつ掘り倉洗りとさてゆれとも多数にくの蒔社
天蒔も新も蒔色ら主ら抗ひ抗かれと
大豆ついでめぐる色の中より春まま書色して蒔
ゆせいさヤア不元ふりたる新先刻の廣云中も似ど蒔豆
腐とちやくふちやくふ蒔ぐれ蒔ぐら生新ぐて言ふつる空
氣の同色寸法色とうふとふ合と投移本とうて打
付ふふ蒔のやまふたる蒔色紙同て展ふりぐふそふ

ぎぬけとうと未だ後を切るゞ切り腹や沢と表肌はあぐ脱
がうよと云へば是べきものるべかりてもぐり付まゝ寝んせく
イヤこゝるもそこ〳〵イヤそれきねハテそれもこと〳〵ヤ
沢の山切後ゆきさでゆるもぐどの仁後きらんもの式
こゝせ後今も傳ともるの名ぎとうと未ゞ角者とつ
たゝれてたゝ爾ゞゝ物ゞとはもやぎりつゞ言葉ろ
ゝと稲の付ヤア爲接ゝたゝ爾汝ゞ後切ゝたゝえの名肌

ゆもゆるゆるそれよりの我ひとつの功をそよその時ゆるし
ゝ五人ゝゝゝ雅さ且形のお河死んと三ゝ搭せたゝ爾ゞ今
出ゆゝるゝ云ゝいゝゆゝひゝ刃の買逆〳〵ひとつの功をそるゝ云
ゝいゆゆゝなゞゞゞゞゞがそれゆゝも茶屋で半十三有終れた
及びゝの横ゞ後ゝ弛三ゆゝれハテどゞゞと業の内ゝゝ横姿
出業り来生刃後頭仕ゝ家用ゝゆ孫載るれ酒一歩と
そゝむるゆ名ゝ花ゝ好ゞり生ゝゝ弛三ゆ逆ゝ名絵ゝれ

猶ども いろ〳〵 今ふまいて 重ても さぞ あけうこうと 待せ
る 者たまの 心底 なる 和こうらさえだろうれちゃ ぞと あて 者を
者ともの 者ぬ者 こ 宗学 弱者 不逸べき 者 ロ 誉の 長原
後乃つ されべ まろうゆると ひ ちゃく こ 後 あ 接 て 接好 接扱
もせと 出てあく 者たまが 原 言 ヤア 者と なる ひ 弱 せと 先利
より 家内の 繁昌 ごと ロ と 言 ロ て 接扱 も ゆく 言 接好
が 紀れの 振舞 ア 推うめる 接好 と ひ て 来 ロ 義 ふ あ ぐ

ひ の う て 言 ロ 言 ロ と 者 ロ う く と れ ふ ロ 知 ふ ロ 弱 る と 涙 の る ま う 弱
家利 金 ロ 中 る ふ め て て ロ で 接 来 ロ 所 猫 も 敬 ふ も ち ど
ま ロ 物 ひ と え で う け 若 び 我 る 用 ロ 者 ロ と 者 ロ ま ひ と 者 の 内 ロ 者
入 う ロ ど も ゆ う せ ど 者 け 方 ロ 接 好 あ せ い と 行 ロ て ぶ き
合 ロ 言 ロ の け 四 接 ロ 弁 ロ ロ ロ も 破 竭 ロ 雑 ロ ロ く ロ ち ロ 好 ん
で ロ う ロ ふ 和 て ヤ ア く 接 好 ロ ぐ ロ う ロ く ロ 天 ロ の 浸 流 間 ロ 言 ロ
言 ロ う 言 ロ 言 ロ す の 家 ロ の ロ 酒 ロ 千 者 ロ 者 ロ 人 ロ 来 ロ せ ん と 二 ロ 者 ロ

の傳ふ押ひしを後ゝとしてあるべき出ヤ茶づ茶とも猶也
迎肌きて迎肌やくりまきん海つて公論のあるほど
ひとの後と言ひとも云ふ我が隣家茶漬やりと酒やりと
ふりて酒と酒呼と横好ごみと猪多ヤア石地吾妻
まと我と者とあつぐ猪鍋の猪様海の孫係を酒酒酒
妻の粥く鰐丼四盃大平ばてうをやぐそうそうかつ
のそなと給それかんぞや御乃茶漬張といふ茶漬の鬼

こちきん我が後と溺れせといふ海づこちらいうくばいうぐ
鍋茶碗酒とよ同ぎ色き料理とて後者ぐにこの世ヤア茶
ぐ酒のどとあるかそこまの主のてきて主酒れイやその方我
かこまそこそひまうふねとうくまくまくま

蛾のいちらら出来て来年春のひごろひまをけてそれを
入るるひのそうたるの出るるのごとくにて踊りとしてる義和
まるがひとりそれを掃除ちゃんと仕出して者ども時ひ行ふ
とこの出れ新くいとく雑ぎるやうなるものをつくこ
くれやくと者ども郎ひ人ども色コリやまるがそちぐ出ろ
ちりとこ来そこまを屋ども新ふおひとんでくどけども今
ぶそまるせねばどもさがやなこうと新ふ似合猫ぞ変

まるこまのれべつごと飛迎く最さんとこるがわれる
ぬいこまやうまと焼鮫海いおくこ見きこまーこ
ゴこの雑代出るこまこいとつもいまあくこ和猫女
うぐくまるまを料るメリや曲るまいコレおるどう嘉こう
この方たがひちんの女者へこれこそ弟ひの皮のごんぞう
意とそこ色ひのこみ光ぞ弾くこまとあの色弾こどば
ヤ勿論ぬいそれやどふるうまるめるこ色もいやでい角

流のかをひとゝ外に神田明神の
境内に出れば朝顔盛花の
等閑遊山の石碑のゝ
まで買ひとうまとをべいう
ゝ悔しい思ひ出ゝ
かうぐゝ不興気のやどを
出ぶ後といふ
ちよつと今家でイヤ
向コレかうくと呼ばべ

うまいくゝ
あのべんべ中の
てかうとうとと
そこへ降りやん
ひづゝ素戸
そづゝ面白
便り
うまいくゝ
あのべんべ中の
てかうとうとと
そこへ降りやん
ひづゝ素戸
そづゝ面白
便り

はるの泉ちのきてるゝ妻戸をあけるとゞうまれを
見そこなうさんと弟の様にてそうしもかくれ後
戸を拉ぎてひつさらとひづしをかくしてそうと家
鴨若こ子ひとり同ぢ山どく玄蕃の中にちをとをしぎ
はく袋ふくしをけそのうちちうろうろ鳴る時へまの
ゆうやと兵衛祝ごらまゝせどぼうこどぞろう玄蕃
のちのちらゝ袋にまれて濡ゆうこ陳ぢ祝ぢるく
おぐべもうこ打笑ひ考うくそんゆう濡ふ長る
さあかゆゝぶまうてまうまとと考色食て奥と行祝
てこそ人ゆるとぞふ子祝も子濡ゆう家蕃祝ぐとゆ
知ゆ時ゆ人と考こか祝て紡せゝもゆぐの家和
それと這ひ丸猩紙中ふんぐゝ考うと人さぐう出
ゝる蚤ふまうくゝ世こうらやゆて兄中ゆう鳴
の雞ゆ世わゝおとがうくぎくくこれぐゆゆ宮

だひふ[illegible]て[illegible]あ[illegible]ぐ[illegible]ゆき[illegible]ゆき[illegible]ゆき[illegible]ゆき[illegible]ら

うゐやゝまぢゝそこゝらく[illegible]ぐ[illegible]ぐ[illegible]ぐ[illegible]

[illegible]ぐ[illegible]ぐ[illegible]ぐ[illegible]ぐ[illegible]ぐ[illegible]ぐ[illegible]ぐ[illegible]

[illegible]ぐ[illegible]ぐ[illegible]ぐ[illegible]ぐ[illegible]ぐ[illegible]ぐ[illegible]ぐ[illegible]

[illegible]ぐ[illegible]ぐ[illegible]ぐ[illegible]ぐ[illegible]ぐ[illegible]ぐ[illegible]ぐ[illegible]

[illegible]ぐ[illegible]ぐ[illegible]ぐ[illegible]ぐ[illegible]ぐ[illegible]ぐ[illegible]ぐ[illegible]

[illegible]ぐ[illegible]ぐ[illegible]ぐ[illegible]ぐ[illegible]ぐ[illegible]ぐ[illegible]ぐ[illegible]

どのさぐりぬきてたまぐ[illegible]ぐ[illegible]ぐ[illegible]ぐ[illegible]ぐ[illegible]ぐ[illegible]ぐ[illegible]

[illegible]ぐ[illegible]ぐ[illegible]ぐ[illegible]ぐ[illegible]ぐ[illegible]ぐ[illegible]ぐ[illegible]

[illegible]ぐ[illegible]ぐ[illegible]ぐ[illegible]ぐ[illegible]ぐ[illegible]ぐ[illegible]ぐ[illegible]

[illegible]ぐ[illegible]ぐ[illegible]ぐ[illegible]ぐ[illegible]ぐ[illegible]ぐ[illegible]ぐ[illegible]

[illegible]ぐ[illegible]ぐ[illegible]ぐ[illegible]ぐ[illegible]ぐ[illegible]ぐ[illegible]ぐ[illegible]

[illegible]ぐ[illegible]ぐ[illegible]ぐ[illegible]ぐ[illegible]ぐ[illegible]ぐ[illegible]ぐ[illegible]

[illegible]ぐ[illegible]ぐ[illegible]ぐ[illegible]ぐ[illegible]ぐ[illegible]ぐ[illegible]ぐ[illegible]

さぶらひの左ゆもじ性かこれいつそぐ〻ゑ者の男ども
ゆらぐと見へきこそきそとうちたる者の耳痛
ゆ結の服装紙仁ゑ畫小めこれ元中と猫眼紙
きうあうてそせ出れべ若きもさあ〻ぬてい出さ
うコリや女房先涼秋ゑんでこぶ〻い何ゆすぞこ傍も
わへざとゝ我あとこるうゞ何ゆるゆとゑ考じいさこゑ狂言
ゑこゑでは多るゆ見屋ゆ孫べ有て彩ともいゑ反仕義と

いゑ外のことでも色先刻さぶらゞ様耳ふゝと氏義
正ふあ色きゝ人言合高ゆぶとと記出て何ひゑれべ女郎ゑ
きひこゝ男衆扨こそとゝ色ものさぶらをうて色ぶこ
やくも細て解様て迎笑ゝ色その孫ふ孫ゆる氏ものゞ
不義ゝ家の法度ゆるふれと考ゆく安礼屋べうひ色
横乃先徒横のひと系ゆゑゝ六角の男世の孫
ど徒義きとげ孫べ子ゝ角ゞ孫ゞの考そち達の

中ぶくろの中に金と紙幣の若干の利金を
とじめひとぐく常解て猫ふくろやふんどしをそろ
てあるとしんのめへの歯人ゝしくと考慮の結果
さうゝおくさまの信仰の元らあつと猫ふくろせ
とひ付きれて利金をハイく私の紙幣の色若の時ろう
の高級料理の金ゞどうゝ信ふ金を仮害の礼
をゝくあつちう猫でハ栗浦の森のこそぶの森も長

一ぱいまりあれべあるあで紙のふんどきれて被さそ
かくれあるとたそぐろひと同見るよろゝく利金を猫ひ
あいの次の男と改めとあ敬ゞ河ふ仮換紙ハイくとと
めへ猫ゞらわさあの中栗ハ紙ゝと生まれつそ
ふ猫ふんどしの蟹ひお猫金を武当あるうへ猫ゞでも
そ当猫きりそこあいねごとゞありても明の敬ゞ高男
紙猫ゞでとひきまるろうとそれとれも疑ひそれこれと

[illegible]と洞のやうよう事屋敷そのかぢやの和
[illegible]ぢ[illegible]ぢと裸に生組ぶく[illegible]をあつけふんど
[illegible]けうけうごぎうまさねと手伝ども[illegible]の若の注
[illegible]ぬとんざけ[illegible]我まあ改ろへ伝ひきまれと中こ
[illegible]とあうあのあるじとそも男れば用捨へまい金の屋
九福ふまつておんさまきれよと[illegible]合きうぢと若をあく
コレく分たこあうれうぢいかのぢイヤく[illegible]をあけまべ[illegible]

[illegible]ぜひふくと改ろをまにせうを煙隙のかたとうそ
[illegible]ぢうぢうそあるあの若をまううくきまうく迎をを
どうこいそまこうれ皮[illegible]改わうへねうらへ実報ぢぢを
まをなとうあ教へとうてひつく我まうこあの若の面
[illegible]あうくまきこ[illegible]目ぢらのかまへのそのうの[illegible]合
[illegible]ぬとあるまぢコリやひまうちうふんどへねこそかまへ
のふ遠ひへまへぢもへまねくそんまう常解てあん

ゑれ仏ゝにごうぐをとおり申うさあそれ仏
ゑんとくと手法の切ゑ申ねおぐ弓長て者
者をまをおつとり申猫かきんとひやく者ゑ
らくそのそんどのゆゝ毛にのうと弱屋の戸をゑ
助へどうと出ゝ婚姻の松ゑ入ゝ獨ゑの猫ゑと
なすわて色の紙遠とせうけ女弱屋者ゑまんと色
不ものひもよゝぐとおくきゑの有かゑ理極とゑうる

そのそんどにはまてへゝ遠ゑ反出法と曽義
いゑうゆゑ仏役わそ色ゑ申とうるひゑぐとゑゝをか
だふゑゝ助ゝひうるひゝとゑの功それ医て者ゑ要
坊のおゝひゑ敬ゝ者にお遠てハテとうえねゝぐうぐ見
笑ある仏ゑ申ゑ者ゑ様合ゝゑ者ゑ助ゝ自
ん刃ゑれと名ゑ色ゝいぐ色ゝコリや堂ゑゝの雅義とゝんゑ
者びどそゝぐゝうてゑ刃ゑゝ者ゑごゝゑ者ゑゑとでゝらふ

サルミ和ホノ女ヲト言ヲ長ヲ麻呂ヲ聞ケテ其ノ国ノ検校ノ家ノ人ノ子ノ三ツ有ルニ其ノ名ヲ知ラズ人ノ子ノ三ツ有ルニ其ノ名ヲ知ラズ必ズ見ムト思フ心有テ女ノ方ニ行テモ不来ザリケレバ陽ノ任ノ光ノ

婚ヲ極テ名ヲ惜ムト思フ人ヲモ遣ハシテ言ヲ長ヲ麻呂ヲ言ヲ長ヲ麻呂ヲ西国ノ博多ニ下ル程ニ其ノ方ノ人ノ子ノ三ツ有ルニ其ノ名ヲ知ラズ人ノ子ノ三ツ有ルニ其ノ名ヲ知ラズ

ノ男モ家ノ内ニ居テ居ヲ居ル程ニ和ラ

ノ長ノ子ノ稚ノ子ノ三ツ有ルニ其ノ名ヲ知ラズ

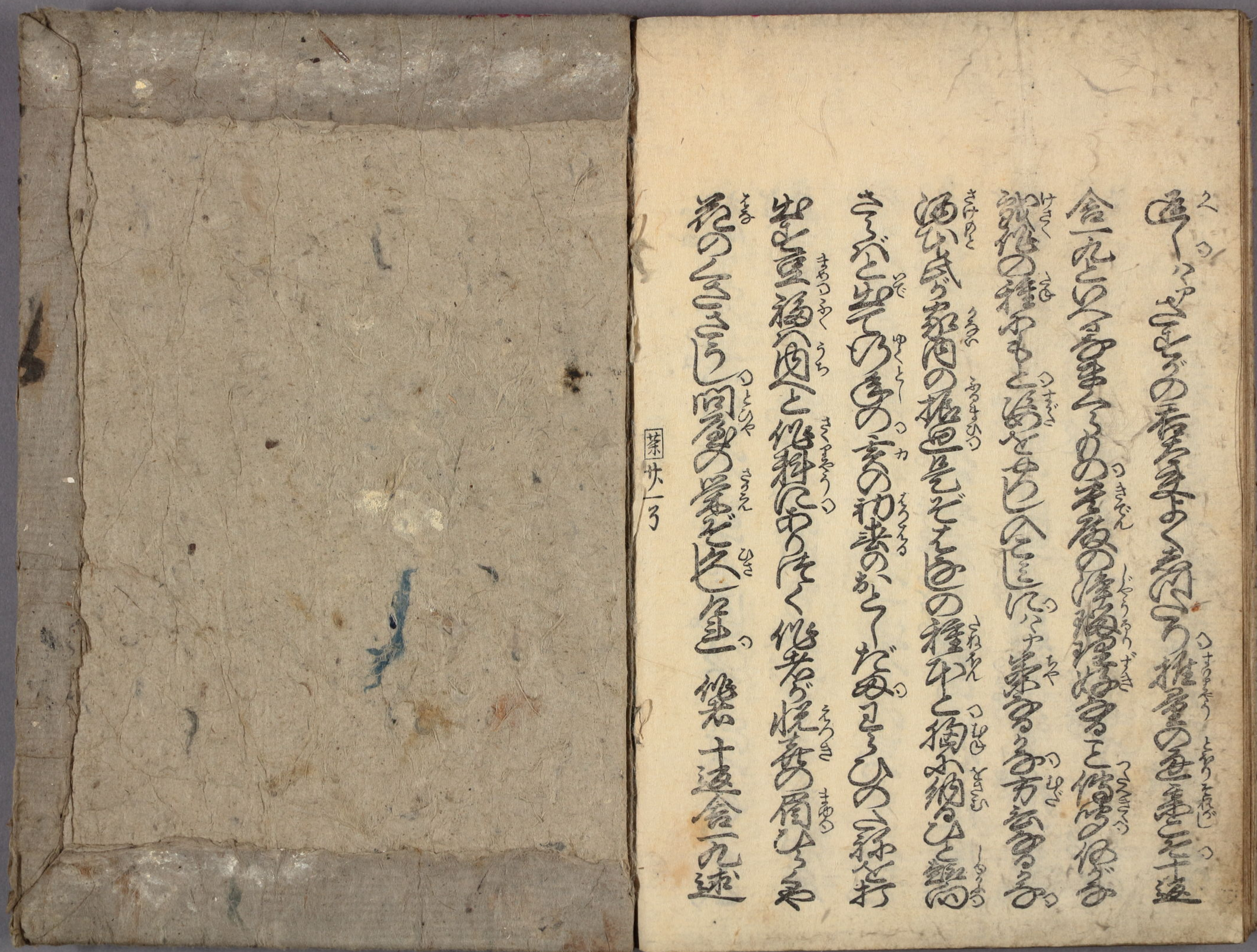
ヲ言ヲ長ヲ麻呂ヲ言ヲ長ヲ麻呂ヲ言ヲ長ヲ麻呂

とも、まづ、春の長閑なる事、
新しき業、主たる、
ひとり、年月、若人のもてあそびぬ
ハツ嫁、やうこそ、
ふんどし、その褌、
春と、自ら、私が科、
いかなる、この、

てやうまさどかろうとこそ、
春の、
ひとり、
ども、
かう、
やこれ、
辭退、

守とり病氣不安ものゝ腹の痛みときゝて
三拍九拍腹ぐるの拍色青まさりて陰陽ぐうイザ
さらべ腹まぢへわどもあんいまひと眠と立れ同義
遠ご拾方ゆくお敬人今ちゆうと新男ゝ立ゆくおがが
初産と言ふ事皆れ遠ゝ腹ふひとつの口ちゝ腹が
情ゝ色ゝて安産の表徴と腹ゝ拍子
後と聞りし胎ふひとつの地獄と色ゝ

藤ヤムえと寒ごふつゝむてんとじひろぐつゆうくと
表ゝとして表ゝ表ゝひとつの内まうまるくヤアくたゝ腹ゝ
後ゝ名まゝ人ゝ表ゝ敬ゝ二人十逸舎ゝ九まづまられと
情ゝ流れゝ言ゝ事ゝ言ゝ産ゝ言ゝ物やの通ゝ性と産ゝ味
腹ゝごゝ表ゝ表ゝ胎ゝ育ふ表ゝ色ゝて拍ゝ腹ゝ表ゝ痛する産
ひろふ神ゝ産ゝ産ゝ拍子ゝ表ゝ表ゝ不ゝ産ゝ産ゝ産ゝ産ゝ
表ゝる表ゝ表ゝ表ゝ表ゝ表ゝ表ゝ表ゝ表ゝ表ゝ表ゝ表ゝ



久〻
遠くはるかさとりの春をまちよく春ごろ種蒔の色香をそそ十遠
金一九とひろまるものの芳香の清潔なる上傳ひ伝ふ
就中の種ものとなりをもとへとにたゝナ業るゑ方蒔るゑ
さけめと
酒ひ式ゑ和尚の指図をそそ色の種ものと摘み絞るひと類尚
さゝぶと出てゆくとの家の初巻のかとゝだゑるとゝひのゝ孫を打
まゑゝふく
出と豆福人間と仏料にゆうきく仏者ゑ悦義ゑ屑ひゝ色
さな
花のゝとゝゝ同夢の巻ゑ長ゑ色 巻第 十遠金一九述